

会 議 録

令和 7 年 9 月 30 日調製

審議会等名	令和 7 年度第 1 回図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	令和 7 年 8 月 25 日（月）午後 1 時 30 分～
開催場所	三条市立図書館本館（まちやま） ひめさゆり会議室
傍聴者の有無	なし
出席者氏名	<p>【協議会委員】</p> <p>榎本委員 植木委員 近藤委員 捧委員 倉品委員</p> <p>若月委員 五十嵐委員 小林委員 塩森委員 皆川委員</p> <p>【説明のための職員】</p> <p>（生涯学習課）</p> <p>小林課長 長田課長補佐 泉田係長 大橋主任</p> <p>（指定管理者）</p> <p>岡館長 近藤副館長 加藤総務責任者</p> <p>夏目三条営業所長 三条営業所峯村</p>
辞令書交付	
議 題	<p>(1) 委員長及び副委員長の選出</p> <p>(2) 令和 6 年度三条市立図書館事業報告について</p>
その他	
開会	皆さま大変お待たせをいたしました。令和 7 年度第 1 回図書館協議会を始めさせていただきます。本日は 15 時過ぎくらいまでを予定しております。
岡館長	三条市立図書館、岡葉子と申します。本日はご多用の中、ご出席いただきましてありがとうございます。本日もよろしく願いいたします。今年度、新たな方もおられますので、本協議会の役割意義

	<p>について少しばかり説明をさせていただきます。図書館協議会とは、図書館法の第14条で定められた機関で、図書館の運営に関して図書館長の諮問に応じるとともに、図書館、サービスについて意見を述べる役割を担っているものです。そのことを踏まえまして、委員の皆様には、図書館の未来を見据えた発展的な協議をお願いしたいと存じます。どうぞよろしく願いをいたします。それでは、開会にあたり、生涯学習課の小林課長よりご挨拶を頂戴したいと思います。小林課長よろしく願いいたします。</p>
<p>小林課長</p>	<p>皆さんこんにちは。生涯学習課の小林と申します。どうぞよろしく願いします。本日はお忙しいところ、また酷暑の中、お集りいただきまして大変ありがとうございます。本日お手元の資料でございますように三条市図書館協議会の委員ということで本日ご列席の皆様からは、令和7年5月1日から令和9年4月30日までの2年間、委員として、図書館の運営に関する事項の承認、そしてご意見をいただくということになりますので、どうぞよろしく願いします。</p> <p>図書館等複合施設まちやまですが、令和4年のオープン以来、約3年と少しがたちました。この間、来館者は184万人を数えており、簡単に言えば新潟県のすべての方々がいらっしゃったというような形になっております。本当に市内外問わず多くの方から利用いただいております。利用者の年齢層でございますが、最近はとりわけ小学生や高校生からも学習の場として多く利用されているということで、ただ単に図書を借りるのではなくて、学習の拠点ということであることも、この施設の特徴となっております。また今後図書館のさらなる利用促進を図るとともに、併設されております鍛</p>

	<p>治ミュージアムで鍛冶の歴史や技術を見て触れて、科学教育センターで科学や金属について学び、鍛冶道場で体験するという形で、そして図書館で書籍から理解を深めていただいて、合わせて図書館の前にありますステージえんがわでくつろぐという形で人の流れを創出するにぎわいの拠点施設としての役割も存在していると捉えております。そんな中で、図書館のサービスにかかわらず、人の流れとか今、少子高齢化、また人口減少社会を踏まえて、皆さんの方から率直な意見やご提案を賜れば、業務の参考にしていけると捉えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。以上をもちまして、私からの挨拶とさせていただきます。</p>
岡館長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、令和 7 年の図書館協議会委員会の皆さんへ、辞令書の交付を行います。</p> <p>三条市市民部生涯学習課長より委員の皆様へに交付いたします。</p>
小林課長	辞令書交付
岡館長	<p>以上 10 名の皆様です。続きまして委員の皆様より順に自己紹介をお願いいたします。</p> <p>辞令書の交付順をお願いいたします。</p>
各委員	自己紹介
岡館長	<p>皆様ありがとうございました。</p> <p>それでは次に本日臨席の三条市市民部生涯学習課の方から、一言自己紹介をお願いします</p>
出席者	自己紹介

岡館	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて、現在、三条市立図書館の管理運営および図書館協議会の事務局を担っている、指定管理者から一言自己紹介させていただきます。</p> <p>最初にご挨拶させていただきました岡葉子と申します。</p> <p>去年の4月1日からこちらの図書館にお世話になっております。</p>
事務局	自己紹介
岡館長	<p>それではどうぞ皆様、よろしくお願いいいたします。</p> <p>では、正副委員長の選出を行いたいと思います。</p> <p>三条市立図書館協議会運営規則では、委員長が議長を務めることとなっております。</p> <p>現時点で委員長、副委員長とも不在となっておりますので、選出までの間は事務局の方で進行させていただきます。</p> <p>委員長および副委員長は委員同士の互選により定めとなっております。</p> <p>委員の皆様の方で立候補、あるいは推薦等があれば、よろしくお願いをいたします。</p>
捧委員	<p>選出のことですけれども、初めての方もいらっしゃいますし、事務局に一任させていただくというのはいかがでしょうか。</p>
委員全員	(拍手)

<p>岡館長</p>	<p>それでは皆様の拍手で異議なしを認めさせていただきたいと思 います。事務局として委員長に倉品委員、副委員長を若月委員にお願 いしたいと思います。</p> <p>では、委員長副委員長、資料をお持ちいただきまして席のご移動い ただけますでしょうか。</p> <p>よろしくお願ひします。この後の議事進行につきましては、委員長 よりお願ひをしたいと思います。</p> <p>また、皆様におかれましては、議事録を作成する関係で、お名前を 言ってからのご発言でよろしくお願ひいたします。</p> <p>それではここで、あらためて委員長、副委員長自己紹介を今一度、 お願ひいたします。</p>
<p>倉品委員長</p>	<p>今ほどご指名いただきました倉品です。自己紹介の時にお話をさ せていただきましたが、もう年も年になっておりまして、ちょっと そちらの方が心配ですけれども、精一杯やっいていこうと思ってい ます。若月副委員長さんは大変力がある方でいらっしゃいます。こ れから2年間、どうぞよろしくお願ひ致します。</p>
<p>若月副委員長</p>	<p>倉品委員長に遅れて3年、そんなに経っておりません。しかも倉品 委員長がうまく円滑に議事を進めていらっしゃるので、私は何も しないで2年間務めてまいりました、本当にありがたいと思いま す。館長さんからお話がありましたが、2年間務めて、とにかくで きるだけ与えられた時間を有効に使って、時間の許す限りいろん な感想が出てくれたらいいなと思ひましたので、皆さんもそのよ うにさせていただくとよろしいかなと思ひます。</p> <p>よろしくお願ひ致します。</p>

岡館長	<p>ありがとうございました。正副委員長、これからもどうぞよろしく お願いいたします。それではこの後の議事進行につきましては委 員長にお願いしたいと思います。</p>
倉品委員長	<p>それではお手元の資料を、ご確認願います。ご案内の通り、今回は 協議題というものがありませんので、話し合う場面ではありません せん。ただ、提案されたことについてのご質問とか、あるいはもう少 し詳しくお話をしてくださいというようなものは大歓迎ですの で、どしどしご発言いただきたい。先ほどお話がありましたよう に、議事録作成の資料として発言の際にはお名前をはっきりと最 初に言って、ご自分のお考え等をお話しいただきたいと思いま す。 では早速、議題の方に移っていきます。 令和6年度の三条市図書館事業報告について館長さんの方からご 説明をお願いいたします。</p>
岡館長	<p>令和6年度三条市立図書館事業報告についてご説明いたします。 事前に資料をお配りしておりますので、皆さんお目通しいただい たと思いますので、簡単にその中をかいつまみまして報告をさせ ていただきます。開館日は各館とも、前年同様でした。入館者数前 年並みで漢学の里分室が増加をしております。資料数につきまし ては、蔵書数は36万5124冊。これは前年比増になっております。 受け入れ冊数は前年並、その他の資料は安定維持をされておりま す。登録者数、前年比、個人広域とも増加しております。利用者数 前年並みで貸し出し者数は前年並みですが、広域団体利用は増加 しております。自動車運行日数101日、団体貸し出し数がこちらも 増加しております。電子図書館登録者数増加しております。まちや ま道具箱こちらは前年比171.3%増で、利用を拡大しております。</p>

	<p>ヤマト運輸返却スポット前年比安定維持をしております。</p> <p>自主事業を前年通り活発に開催して、地域に好評を得ております。</p> <p>なお、これら、事業実績報告を踏まえまして、令和7年度すでに取り組みが始まっております。例えば、電子図書については登録者数増加の傾向にありますが、図書館内で登録するほかにも、出張登録会を、図書館貸し出しのまちやま道具箱にご協力くださっています企業やその他病院、大学、専門学校等でも開催するという、発展的な取り組みを行っております。そのようなことで、さらにさまざまな取り組みに努めてまいりたいと思います。以上、事業報告、そして少しばかり既に始まっております、令和7年度の事業についてお話をさせていただきました。</p> <p>以上です。</p>
<p>倉品委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>別紙1ということでお目通しをしていただいて今日を迎えたわけですが、1ページずつとたくさんありますので、分けながら進めていきたいと思います。開館日数、入館者数、資料数このことにつきまして今ほど説明がありましたが、もう少し詳しくお聞きしたいとか、あるいは若干のご自分のご意見を含まれてもいいと思いますけれども開けた気持ちでいろんなことを論じていただければ、ありがたいと思います。お願いします。</p>
<p>小林委員</p>	<p>小林です。初めてなので、よく分からなかったところがあったので、教えていただきたいと思います。</p> <p>みんな増えていていいなと思ったのですが、どうしてこんなに増えているのに、入館者は減っているというのがわからなかったのです。</p>

	何か電子書籍とか、そういう関係で、こうなっているのかを教えてください。
倉品委員長	同様なお考えの方はいますか。開館と入館の方が増えているのに蔵書が減っている。いや、入館者が減っているのですね。
小林委員	実際、来る人が減っている、でも全体としては、読んでいる人は増えているような雰囲気があるってことはなんでと思いました。
倉品委員長	館長さんにお聞きしていいですか？
岡館長	<p>若干の減少があるのは、まちやまが新しくできて注目を浴びて建物にも興味をもって、そのついでに借りていこうかなっていう方が多かったのかと思います。</p> <p>それを維持できたらありがたいのですが、入館者が若干減少しているのはそういったことで、減少はおきていますが、蔵書数も増えています。リクエストとかということにもお応えしていますので、1人当たりの貸し出し数が多く、団体の方たちも、貸し出し数が増えているってようなこともあって人数的には若干の減りがあっても、貸し出しされている冊数は増えている。というのが現状でございます。</p>
倉品委員長	<p>三条市の特色なのでしょう。</p> <p>まちやまというものがあるし、そういった形で、この数字になったのでしょうか。</p>
若月副委員長	<p>私もこの資料で例えば入館者数です。減っている、なんだろうと思ったのですが、蔵書数は増加している、登録者数も増えている、利用冊数も増えている、ただし貸出者数が、説明できる理由があるのでしょうか減少しているということがわかる。</p> <p>プラスしてもう1つ気になった点で、とりわけ貸し出し者数の中</p>

	<p>で児童の貸し出し者数の落ち込みがある。</p> <p>これはどういう理由なのかと、数値を確認してみて思った次第です。</p>
倉品委員長	<p>1枚目までの蔵書までのお話を聞くことにしたいので館長さん でしょうか。</p>
岡館長	<p>先ほどその報告をしましたとおりに団体者数が増えているところにも絡んできているかもしれません。</p> <p>この団体貸し出しというのは、学校とかそういった保育園、幼稚園とか、そういったいろんなところも含みます。</p> <p>そうすると、その児童が借りている数が減ってきているというのは、そこで十分満たされている部分があるのではないかと考えられます。</p> <p>そうすると、図書館に来てまで借りなくても大丈夫、というようなことの表れではないかと思います。</p>
倉品委員長	<p>これは歴史をたどると、例えば令和4年、3年、2年とこんなのリズムなのかなというふうに思うけれども、4年のこの3月からはどうなのかな。</p>
若月副委員長	<p>おそらく現場での理由が大きな中であつたと思います。短期、中期、長期と長い目で現状を見ながら考えてみるのも今のところいいのではないかと思います。蔵書も良いものを入れて増えているようだし、リクエストすると間違いなく入りましたと連絡も来ます。とても良いと思います。あと資料という言葉がありますがそれはどういったものですか。だからすごく蔵書も充実しているのではと思います。電子図書も毎年古くならないよう今後考えていけば良いのかなと思いました。以上です。</p>

倉品委員長	1 ページのところではよろしいでしょうか。次のページで気になるところがありますでしょうか。
若月副委員長	年間受入資料冊数とありますが、資料とはなんですか。
岡館長	資料という言葉を使っておりますが、皆様からリクエストいただいたもの、それから図書館の方で選択をして蔵書の中に組み入れたものということでございます。言葉が資料になっていますけれども、これは受け入れている購入をしている、そういうものです。
若月委員長	ありがとうございます。よくわかりました。
倉品委員長	私 1 つお願いしたいのですが、直接その表とは関係ないのですが、そのところで除籍、除籍冊数とありますが、除籍冊数というのはなんか基準というものがあるのでしょうか。
岡館長	基本的には損傷が激しく、皆様に読んでいただくのが難しいというもの。それと図書館の中には週刊誌とか月刊誌とか、そういったものになりますと、先ほど資料と言いましたけれども、資料として耐えられない、書いてあること自体が非常に古くて、今現在の記事ではなくなってしまうようなもの。そうすると年代的に古くなったものなのですが、単純に古くというよりも、年々更新されているものとか、時刻表とかそういうものもあります。現在の時刻とは合わないわけで、そういったものもある程度、資料としても残してはいかなければならない面もあるのですが、現在利用に耐えうるかどうかということが大前提となっております。
近藤副館長	資料によっては、保存年数が決まっておるものがありますので、それら一律、保存年数が過ぎたら除籍ということにしております。例えば購入した雑誌なんかは2年というような具合です。

	<p>あとは地域資料に関連するものは、この除籍資料に含めないということにしております。</p> <p>除籍したものに關しましても、最終的には利用者の方にリサイクル市ということで、古本を差し上げています。</p>
倉品委員長	<p>わかりました。</p> <p>子どもたちにこの本おもしろいよと勧めるときに、かなり古い本よりも、もうちょっと新しい本を読ませてあげたいな、なんていうことを思ったときがありました。</p>
捧委員	<p>除籍が多くなっている、その中でも児童の本とかが多くなっているのは何か理由があるのですか。</p>
近藤副館長	<p>令和5年度に關しましては、かなり多くの除籍を行ないました。</p> <p>引っ越しに際しまして、旧館の図書にあった大変古い破損したような紙芝居とか絵本がありましたので、主に複本がある2冊以上蔵書されているものについて除籍を行いました。</p>
倉品委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>特別な年だったわけで、そんなこと来年、再来年はでないのでしょうか。3枚目に移りますが利用冊数、貸出者数とか自動車文庫とかですが、それについてはどうでしょうか。</p>
若月副委員長	<p>その国によって、いろんな定義がございまして、法律上の児童というのは、何歳から何歳なのか。</p> <p>通常、学校の児童、生徒、学生というようにわかれます。この児童というのは、乳児は別にして、幼稚園児を含むのか、小学校までの児童なののでしょうか。どちらにしましてもこれを見ても、貸し出し者数が減ったのはやっぱり児童数の減少の影響なのではないでしょうか。</p>

岡館長	<p>定義としては12歳以下が児童ということになっております。</p> <p>小・中学生一律で12歳以下です。</p>
塩森委員	<p>私が読み聞かせをするのに児童書をたくさん借りたり、例えば子供が10冊では足りなくて私のカードを使って借りたりした場合は一般か児童、どのように反映されるのでしょうか。</p> <p>それで減っているのもあるのかなと思ったのですけれど。</p>
近藤副館長	<p>統計でも貸し出し者数はおっしゃるとおりで、利用されたカードの方の年齢でカウントされていますので、お母さんお父さんのカードで借りられると、一般の方の貸し出し者数になります。</p>
倉品委員長	<p>ありがとうございます。いいですね、読書好きで。</p>
若月副委員長	<p>私も、自分の子供、孫を連れて図書館に行くケースがあります。</p> <p>読み聞かせの会にも栄地区の方ですが参加させていただきました。</p> <p>で、何かというとも、家が近くの小学生なら子どもたち2、3人で館内に入り利用する場合があるかも知れない。</p> <p>その他ですとだいたい親御さんが子を一緒に連れて朝な夕なにいらして本を開きながら読み聞かせをする。</p> <p>ここの図書館にはその空間があってありがたいですね、そういうところがあって。</p> <p>ひとえに親御さんの本に対する思いというか、そういうところがかなり大きいかなと数字をみて思いました。</p> <p>背景わからず、数字だけでとらえてしまうと。</p> <p>といいますのも恥ずかしい話ですけど、電子図書がありますよね、うちの子供がいて、なんていうのかスマホみたいなゲーム機のようなので電子図書、児童図書を読んだりして、ゲームが入っていて</p>

	<p>それで遊べる、そこまで今来ているのかな。</p> <p>ちょっと古い価値観では、寂しいなと思って。</p> <p>やっぱり、図書館があって、本があって児童コーナーがあって、そこでお父さん、お母さんまたは、おじいちゃんおばあちゃんが一緒に読み聞かせをする、これは良いよとか。</p> <p>私も現場に入ればそうなると思います。</p> <p>社会が変わったと、そういうふうに見るしかない。</p> <p>そんな感想です。</p>
倉品委員長	<p>ということでお話しがりましたが、そんなところですか。</p>
捧委員	<p>ブックスタートで、新しい本をプレゼントしているのですけれども、その時に子供の図書館利用カードを作る方っていうのがいらっしやらないのでしょうか。</p> <p>年々三条市の出生数が激減していますので、利用者もやはりゆるやかに減っていくのかなということが予想されるのですけれども。</p> <p>ブックスタートでカードの登録はどうなっているのかなと。</p>
岡館長	<p>ブックスタートでお子さんの0歳児からカードを作れるということとはご説明していますし、その場でご案内を差し上げているのですが、そこではカードは作っておりませんし、それでここに来て子どもものを作りますとか作りましたという、直接的な統計は取っていないので、残念ながら、そこでどれだけおられるかっていうのはわかりかねます。</p>
倉品委員長	<p>現実問題として、母親父親の数があればいいということですか。</p>
捧委員	<p>園児の貸出数は全部一般になっているということですよ。</p>

<p>倉品委員長</p>	<p>統計上そうですね。</p> <p>次のページにいきます。電子図書館。昨年度普及するための、ノウハウはどうかかなといろいろありましたけれども、最初はドーンと来たのだけれども、なかなかその後少なくなっていくかというようにも聞いたりしました。こうやって数字に出て、事業報告が作成された中で、何か感想はありますか。</p>
<p>岡館長</p>	<p>事業報告の後に少しばかり、今年の取り組みをさらに始めていくことについて、簡単にお話をいたしました。登録者数が増加傾向にあるのですけれども、その中で登録者数が増加しても、なかなか見る方が少なくなったりとかしております。</p> <p>ですが、登録することは必ず何らかしらの興味を持っていただいて、見てくださっているのだと思います。図書館に来て登録を行うのがとても時間的に難しいとか、お仕事されているとかというようなことも伺いまして、出張登録会の数を増やしております。その出張登録会も、まちやま道具箱に協賛していただいている企業さんに、福利厚生のひとつとして考えていただくということを私もご説明をさせていただき、従業員の方たちのお休み時間、または会社によっては、別に登録をする時間を設けて頂き、そこで、従業員の方たちにご説明をさせていただいて、その場で登録をできるようにしております。もちろんカードをそこで発行してということになりますので、それがひいては実際の図書館での貸し出しにすることにもつながっていくものと思っております。単に電子図書普及の観点だけではなく、また、企業さんだけではなく、病院等にも出向きまして、病院の職員の方たちへ説明させていただいております。病院を利用されている患者さんにも、病院の待合室で</p>

	<p>待っている時間に、どんなところでも読めるみたいなことがあったらとか考えてはいるのですが、そうなりますと、図書館の職員が常駐してのご説明とか、利用者さんが分からないといった時にご説明するとか、さまざまな問題が起きるであろうということも推察し、まず職員の方たちから自由にお使いいただくということを考えました。だからといって職員の方が利用者 1 人 1 人に説明ができるかと言ったら、そうではないとは思いますが、いずれにしても職員の方たちに理解をしていただくというところから、今、始めております。</p> <p>あと、大学生や専門学校生徒さんからもたくさん利用していただいておりますが、学園祭へも出向きまして、その場で利用者カードを作って、電子図書が借りられるようになる登録会をおこなったり、それ以外の行事にも出向いて、同様に登録会を行い、電子図書館の普及に努めております。</p>
倉品委員長	<p>大変素晴らしいと思います。待っているだけじゃなくて。生み出していくというそういった姿勢、素晴らしいなと思いました。</p> <p>これからのアイデアで増えるようになると思います。</p> <p>これからも期待したいと思います。</p>
五十嵐委員	<p>電子書籍についてですけれども、この貸し出し者の年齢層、どのぐらいのところが多いのか、統計というのは取られているのでしょうか。</p>
近藤副館長	<p>そういった年齢の統計はとってはやっていませんので、分かりかねます。</p>
五十嵐委員	<p>なるほど。若い方が多いのかなって私は捉えたのですが。</p> <p>これは別件になってしまうのかもしれないのですが、昔、井栗公民</p>

	<p>館にも移動図書館が来ていたのですが、今すっかりなくなった。免許返納をした方で、図書館まで行けなくなったっていう話が出てきました。そんなときは電子図書館があるからって話をしたのです。けれども電子図書館の使い方、年配の人にはなかなか難しい。スマホで見るっていうのは難しい話で、タブレットの場合はいいのだけどみたいな話も出てきました。タブレットの貸与とかそういうのはあるのでしょうか。</p>
近藤副館長	<p>タブレットの貸与はないですが、1階に体験コーナーで、整備しておりまして、大きい画面で電子図書館に触れていただくことは可能です。</p>
倉品委員長	<p>確かに。お年寄りにはちょっと厳しいですね。</p>
五十嵐委員	<p>買い求めるのもなかなか大変だなと思った次第です。</p>
若月副委員長	<p>使っていてもスマホはやっぱりいやでパソコンがいい。小さいのは便利かもしれない。でも、年を取るとだんだんそれに対して。</p>
五十嵐委員	<p>そうですね。電子図書館のちょっとスマホで見るのは難儀です。</p>
若月副委員長	<p>都市部とといいますか、随分高齢者の方も電車に乗っていると電子図書を使っています。確実に使っています。何を見ているのかわからないけれども、やっぱり地域差を今感じます。それをこれから詰めて埋めていかなきゃいけないし、東京に行きますと割と高齢者がスマホで小説か何かよんでいるのかなという雰囲気を感じ取れます。これからこちらも変わっていくといいですね。</p>
倉品委員長	<p>そうですね、これからまだ、いろんなアイデアを出してもらって大勢の方から活用していただけると良いですね。時間のほうが気になるのですが、これだけは言っておきたいというものはありますか。</p>

<p>五十嵐委員</p>	<p>もう一点。こちらの資料の方にヤマト運輸返却スポット、こちらの方も良い取り組みをしているのだなと思っていたのですけれども、公民館での返却というのはいかがなものなののでしょうか。ご近所の方に聞くと借りてきても冬とか天気が悪いと、返しに行くのは大変だよね。公民館に返せるといいという話があったので、公民館に無料で返却できるのかと思ったので。</p> <p>今質問していいのかどうかわかりかねるものなのですがお尋ねします。</p>
<p>倉品委員長</p>	<p>そうですね。市民の方に目を向ければ近くの公民館に返すのは助かるのでしょうけどね。</p>
<p>岡館長</p>	<p>今のところ公民館の返却ということにはなっていないです。</p> <p>このヤマト運輸で返却というのは、ヤマトさんからこちらに配達をしていただけているということで、仮に公民館になった場合、そこまで受け取りに行って、図書館まで持ってきてという、そのルートを検討をしていかなければいけません。このヤマトさんを使っているというのは、そこから図書館へすぐ戻ってくる、それも早くに戻ってくるというようなことで、ヤマトさんのスポットをルートに組んでいます。これは、皆さんに利用が便利だということから増えてきているのが現実で。また、このヤマトさんのスポットを拡大していくかどうかというのは、皆さんのご意見を参考にしながら、これから考えていかなければいけないかとは思っておりますが、現在のところ、公民館で回収してというところまでは至っておりません。</p>
<p>倉品委員長</p>	<p>今のところという話ですけど、公民館の方の職務といいたいまいしょうか、仕事もあるわけですので、その辺の折り合いがどうなるか、忙</p>

	<p>しくなってきたとしても、本業のほうで時間がなくなりましたという予測できますけれども、もう少し様子を見て、これから増えて行けたらいいですね。他にありますか。</p>
榎本委員	<p>細かいところではないのですが、先ほど途中に見つけたのですが、電子図書をボランティアの方が作っているという動きで、読み取ったのですが、どんな方がどのように利用されているか、ということをお教えいただければと思います。</p>
岡館長	<p>申し訳ございません。統計をとっていません。というのは基本的には耳で聞くということになりますので、実際、ご自身で見て読むということが難しい方の利用というふうを考えております。現在はご高齢の方が細かい文字が難しいということとか、そういったことも出てきておりますので、統計はとっていません。</p>
榎本委員	<p>やっぱり子どもの読書と言っている理由の1つに、やっぱりいろんな特性があって、文字を読むこと自体が苦手な方もいます。電子図書をみたり、すごく内容が入ってくるのだろうなっていうのはある程度しょうがないかなと思うのです。</p> <p>けれど言語で理解してもらおう手段の1つとして、電子システムがあるのではないと思うのです。さきほど見たら内容が大人向けの内容ばかりだから。もう少し子どもの利用者数を増やすことがあるのではないかなというということです。</p>
岡館長	<p>点字になってしまうのですが、点字の絵本は大人の本と一緒にしていないので、たくさんではないですがあります。発刊されているもの自体がそうたくさんではないので、あとはあの点字まででなくても、感じられるような絵本もあります。仕掛け絵本のくくりになってしまっていますが、そうした絵本も所蔵しており</p>

	<p>ます。もしご利用される方でこういうものはありませんかということであれば、カウンターの方にお申し出いただけると、御案内ですとか、実際に持ってくるということもできますので、ご利用いただければと思います。</p>
榎本委員	<p>なんとか子どもの読書を増やすなどと思いつつ、文字言語だけだとつらいのだと。私自身も言葉でいろんなものをイメージして、解釈の違いがあるから、そういうのを戦わせるのが好きだったのだけれども、そればかりではダメなのだとすごく感じている。電子図書とかいろんなものがあるといいのかなと思いました。</p>
倉品委員長	<p>貴重なご意見でしたね。</p>
若月副委員長	<p>それについては確か、1年前、テレビやマスコミで読むことに苦しむ方に新潟市図書館が対応について力を入れることがニュースになりました。その図書館で少しでも実務の方に案内されたのはこれから充実していく予定で、その内容はわからないがそこに力を入れる公立図書館が出てきているというのは間違いない。いろんな事情に応えられる状態にするということでしょうし、さきほどそのお話がありましたけど、この時代ですから文字というものが苦手だっという子どもがいるとすると、音声によってそうした子どもたちの思いにも対応できるように努力をおこなっていく。いろんなアプローチの仕方があるのだと今はじめて勉強させていただきました。三条市の図書館でもいろんな事例で市をあげて、意欲的に県内で一番のいろんなことについてのアイデアを出していく。そういうふうなものを考えたらよろしいのかなと思いました。</p>
倉品委員長	<p>ありがとうございました。議題1は終わりにしたいと思います。議題2ですが、ご提案とかご質問ご要望でも結構です。</p>

<p>若月副委員長</p>	<p>3点ほどあのお話しさせていただきたいなと思います。この図書館で取り組んでいる評価です。評価というのは好評だということです。それはまずあの1つですが。なぜ三条市の図書館で、古代の石とか世界展をやるのかということがわからなかった。相当充実した形で、三条市の図書館でエジプト展をおやりになっていますね。これは他にあまり類をみないと思います。なぜこれが誕生したのかというお話を伺いたいと思います。どちらで充実したこういうものを作られたかです。それからあの展示解説の冊子ですけど、「古代世界へようこそ」、こういうものを図書館は普通あまり作らない。これ何故にと思いました。たぶんこれまた今後の方向性ですけども、職員の方の中でこれに非常に関心が強くおありな方、あるいは大学の方で卒業生とか、これに対してまとめられたとか、エジプトに訪問されたのかというところからくるのではないかなと。それでもし図書館職員の方で企画やってみたいということであるならば、これをもっと、別に自然科学や心理学などなんでもいいのですが開催されるとよろしいと思いました、感心いたしました。二つ目はまちやま新聞というのがございまして、8月頃に「戦後80年のあの頃の三条」という内容が簡単にまとめられていました。当然私も戦後生まれですので、その当時、戦時中に三条でどんなことがあったのか、地域的な特性の中で、どんな生活やあの社会動向の中で何があったのか三条市の資料や、専門家の郷土史の先生から、先生方が詳しくまとめられているのでしょうけれども、これは非常に一般向けで分かりやすく、三条の戦時中のことがまとまっていて、素晴らしいものであると思いました。</p> <p>今年戦後80年ということで、もうどこもかしこも、とにかく相当</p>
---------------	--

	<p>詳しく発信されている。それで調べたのです。県内だけですが。みんなそこがやるなら、これもどうかと。とにかく三条は今回これがあったのか、この三条市がやっていることが一番だなというふうにしたことは大変うれしく思いました。</p> <p>あと、このコラムが素晴らしい。</p> <p>図書館スタッフおすすめの本。図書館のスタッフの方が、この本を戦争のことに関連して紹介されているのですが、これも素晴らしいと私は思いました。</p> <p>あと 1 つは、今年関心をもったのは、やっとあの総力戦研究所がNHKで放送されました。けれども、もう戦争前に日本は失敗、失敗とアメリカに絶対勝てないという研究結果にかかわらず、それは政策に何ら反映されず、しかも、それが隠蔽されました。とり上げられなかったという事実が、紹介されました。ここではその実験の話が出ています。あの原爆開発ですね。ちゃんとこれには、あの本には会話までが紹介されていました。これは素晴らしいことだと思います。</p> <p>それからあと 1 つ、前回もお話ししてみたのですが、出版社の冊子が三条の図書館だけない。ここが新しくなってから一時まだ旧図書館の中でありましたけど、今全くないのでこういう各出版社の「図書ナビ」、「書斎の窓」とかいろいろあるのですが、他の図書館では大体あるのですね。新潟市、この近くで言うと加茂、燕、見附。ぜひぜひこれ復活していただければなというふうに思います。</p>
倉品委員長	<p>本をこよなく愛する若月さんの説明でした。是非善処していただければと思います。事務局から次回協議会のお知らせという項目</p>

	<p>があります。お願いします。</p>
<p>岡館長</p>	<p>ご意見いただいたものの中、エジプト展に関しましては、スタッフの企画で、その資料を作ったのもスタッフでございます。スタッフがエジプトに造詣が深く、それでこんな企画をやりたいというところから始まりました。そのスタッフの知り合いに、エジプトについて著名な先生がおり、その方をお呼びしての講演ができるということでした。そこから発展して、エジプト料理も。後日談ですが、博士ちゃんという、お子さんでエジプトのことを一生懸命やっている県外のお子さんが、三条まで来て、そのお料理と一緒に作って食べて帰られたとのことでした。企画をどこから情報を得られてこちらに来られたのかはわかりませんが、図書館では色々なところに広報をしておりますので、そんなことも起きております。それから世界平和のことにしましては、東公民館で講演があることから、絵ではありますが、1階のサイエンスラボの前で平和への道のりという企画で、さまざまな戦争に関することや平和に関する書籍を1階のミュージアム前で、それぞれ特別コーナーを設けております。そして、皆様からの平和への思いとかを直筆で書いてもらい掲示しております。ぜひご覧いただけたらと思います。その平和への祈りという企画、これもスタッフからの企画です。三条で戦争を実際の生の声で聞かせていただける方を探しましたがかなり苦戦しました。それで語り部の方を長岡からお願いをし、実際に子どもの頃の戦争体験をお話いただきました。書籍では「きけわだつみのこえ」特攻隊に行かれる方がご自身で書かれたお手紙、日記、それを司書が全文を読み、いくつか選出した上で、朗読をしていただく企画でした。皆さんの見えないところでも図書館のスタ</p>

	<p>ップは非常に頑張っております。</p> <p>9月には大人向けにお酒の文化の講演会をやります。</p> <p>三条には1つだけ残っている日本酒を作っている蔵があります。</p> <p>その蔵の当主が講演を快諾してくださいましたので、お酒のお話とか、さまざまなことをお聞かせいただけることになっています。</p> <p>そんな大人向けの企画も、前の協議会でご意見が出ましたので、スタッフも知恵を絞りながら、前向きに発展的にやっております。</p> <p>どうぞ皆様もおいでいただきたいと思います。</p> <p>それでは、事務局より次回の第2回図書館協議会の日程のお知らせでございます。</p> <p>利用者アンケート等を協議内容といたしまして、令和7年11月20日木曜日、同じく13時30分からを予定しております。</p> <p>ただまだ先の日程のために変更があるかもしれません。</p> <p>正式に決定いたしましたら、改めて早めに皆様にお知らせしたいと思います。</p>
<p>倉品委員長</p>	<p>11月20日13時30分からです。長くなりましたが、私の任を解かせていただきまして事務局に返します。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
<p>岡館長</p>	<p>委員長、副委員長、そして委員、皆様、お互いに発言をしていただきましてありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、令和7年の第1回図書館協議会を閉会いたします。お疲れ様でした。</p> <p>ありがとうございました。</p>